



柿崎区地域協議会だより



発行：柿崎区地域協議会 事務局：柿崎区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL025-536-2211

古民家カフェ矢代と山のホムサを視察

昨年11月以降、柿崎空き家活かそうプロジェクトは、空き家を活用した移住・定住化の促進や地域の活性化について検討を重ねてきました。9月17日には実際に空き家を活用している事例を視察して今後の検討に活かそうと、吉井会長以下9人のメンバーで視察してきました。視察先は、地域の有志で古民家の空き家をカフェや地域イベントに活用している妙高市矢代地区の「古民家カフェ矢代」と、家族で空き家を貸しスペースとして運営している上越市

牧区高尾の「山のホムサ」です。なお、視察前に今後プロジェクトを推進するために、どのような情報が必要かを検討し、関係者から詳しく話を聞いてきました。主な内容は、

- ① 空き家をカフェや貸しスペースにしようとしたきっかけ
- ② 空き家を譲り受けた交渉の経緯
- ③ 空き家の改修内容とその財源
- ④ 運営組織
- ⑤ 維持管理費
- ⑥ 今後の課題

一部を紹介すると、「古民家カフェ矢代」は、小学校の閉校を契機に子どもを

通じた地域のつながりが無くなるのではないかと危惧感から生まれた施設です。矢代地区の有志が集まって地域活性化ビジョン作成の検討を行い、さまざまな人たちが集まって交流できるカフェを作ろうということになったようです。

「山のホムサ」ができたきっかけは、高尾地区の家を回る「お茶飲み散歩」という取り組みが中止になったことです。高尾地区への人の流れを途絶えさせないために空き家を貸しスペースにしようと思いついたとのことでした。

改修工事は電気設備等の専門家ではないとできない工事以外、大工の指導を受けながら有志のボランティアや家族で行うなど経費の節約に努めたとのことでした。

それぞれ苦勞しながら施設を運営している様子が伺いましたが、「地域をなんとか活性化したい」「素晴らしい自然環境に恵まれた高尾地区に多くの方々から来てもらいたい」という熱い思いが根底にあることを感じられた視察でした。

(柿崎空き家を活かそうプロジェクト

委員長 蓑輪和彦)



山のホムサ



古民家カフェ矢代

今年度地域活動支援事業に採択した事業を紹介します

生涯スポーツ・ボッチャ普及事業

柿崎まちづくり振興会

柿崎まちづくり振興会は、公民館分館の大集会室程度の広さで手軽に室内スポーツを楽しんでもらおうという理由で、地域活動支援事業に提案したのがボッチャでした。それが、今年のパラリンピック個人種目で金メダルを獲得したことから一躍有名競技になりました。地域活動支援事業に採択され用具12セットを購入し、11月13日・20日に3会場で延べ18チーム・64名にボッチャの巡回普及講習会を開催しました。参加者の皆さんは飲み込みが早く、短時間のうちにルールと打球感覚を習得し、講習会開始から間もなくゲーム形式の練習となりました。

パラリンピックのボッチャは、厳格なルールの下で緻密な頭脳プレーがなされていました。こちらは和気あいあいの中、最初に投げられたジャックボール（目標球）に近づくように赤・青の競技球を投げ合い、1球ごとに歓声とため息が交差していました。途中から参加者が審判を務めるようにもなり、普及事業の成果を達成できました。

講習会の後、早速、自分たちでゲームを行いたいと用具の貸し出し申し込みがありました。また、11月27日には有志チームによる普及を兼ねた模擬大会を開催しました。柿崎まちづくり振興会は、今後、町内会や有志グループ等を対象に普及講習会を行う予定です。ボッチャの用具はかさぎドームに保管していますので、貸し出しを希望される方はドームにご連絡ください。



猿毛城址登山道整備事業

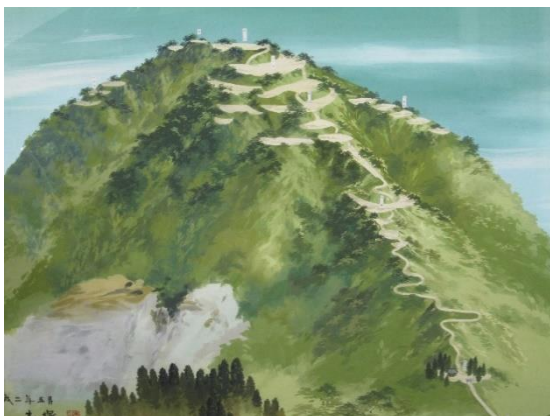
柿崎まちづくり振興会

柿崎区城腰地内にある標高479メートルの城山・猿毛城址は、柿崎景家公の重要な軍事拠点でした。上杉謙信が亡き後の相継争い・御館の乱で、柿崎家が景虎側と景勝側に分かれ、猿毛城でお家存続をかけた攻防戦を戦い、景勝側が勝利し柿崎家存続が認められたという悲しい物語がある山城です。

かつては、城腰集落の皆さんが山頂までの登山道を毎年整備されていました。最近、山城ブームにより山頂を目指す愛好者が出てきましたが、登山道が整備されていないため道に迷う人もありました。

このたび柿崎まちづくり振興会は、地域活動支援事業を活用して、猿毛城址登山道と山頂を伐木・刈り払いしました。登山道を整備することで、多くの人から柿崎要害・猿毛城址を認識してもらい、霊峰米山、密蔵院そして楞嚴寺などと合わせて黒川地域の歴史・観光の認識と振興に役立つと思います。城

山・猿毛城は、急峻な岩山です。きつい登山になりますが、春の芽吹き前、秋の霜枯れ時の途中・頂上からの眺めは新たな地域の発見になると思います。ただし、登山は自己責任でお願いします。しっかりと準備して、できれば複数人で挑戦してみてください。「こんな岩山でどのような攻防戦が展開されたのか」と感じると思いますが、



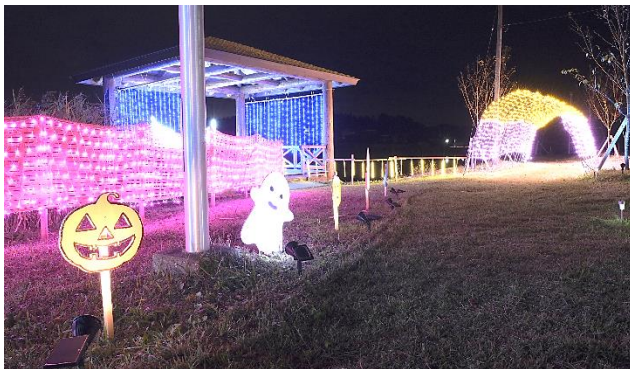
坂田池湖畔にイルミネーションを飾る（柿崎商工会青年部）

柿崎商工会青年部は、故郷「かきざき」の持つ風土を再確認しながら、新しい魅力創造の一助となるべく活動しています。

昨年度、地域活動支援事業の採択をいただいたHappinessイルミネーション事業では、コロナ禍において青年部にできることを考え「応援」をテーマにイルミネーションを飾りました。

今年はコロナ禍の影響が続く中、大人も子どもも笑顔になれる明るく楽しい明かりを灯そうと、ハロウィン仕様のイルミネーションとしました。さらに柿崎商工会青年部研修部門で学んだ「SDGs」から、クリーンなエネルギー項目、気候変動への意識をイルミネーションへ展開し、ソーラーパネルを用いるなど事業を通じて部員の資質向上を心がけています。

私たちは、工業・商業・サービス業など異業種の事業所が集まる団体で構成されています。この特徴を生かし、違った目線を持って協議することで、これまで多様なイベントや事業を開催してきました。地域の皆様のご理解を賜り、さまざまな事業へチャレンジできることに感謝し、日々変わりゆく時代の変化の中を部員22名が一丸となって活動していきたいと思えます。



地域活動フォーラムに参加して

どの地域でも人口減少・高齢化が進み、種々の地域活動が弱体化している状況の中で、若いスタッフを育てながら「まちづくり」に取り組んでおられるNPO法人aisa（アイサ）理事長の水戸部智さんの講演と意見交換が11月17日、柿崎コミュニティプラザで行われ、何か参考になることがあればと思いい参加しました。講演の概要は、地域活動に若い人たちを呼ぶ込むときに必要なことは、

- ① 我々が、人口減少により地域社会が縮小している現実と、時代が変わるとともに人々の価値観も変わっていることを認識すること
- ② 活動の中で、若い人がやりがいや面白さを感じる役割を担ってもらうようにすること
- ③ 地域に興味を持ってもらうきっかけを幾つか用意していくこと

という内容でした。話を聞いている中で「人がいない」「高齢化している」等の人材面での諦めや、「この活動はこうしなければならぬ」等の固定観念が自分にもあると気づかされ、もう少し発想の域を広げていきたいと思いました。

（委員 中村 誠）



まちづくりフォーラムを開催します！

柿崎区地域協議会の活動報告や地域活動支援事業の成果報告等を行います。
詳しくは1月の回覧チラシをご覧ください。

- ◎開催日時：令和 4 年 2 月 20 日（日）
午後 1 時 30 分から（2 時間 30 分程度）
◎会場：柿崎コミュニティプラザ 4 階 ホール

柿崎区地域協議会の主なうごき(令和3年9月～令和3年12月)

会議名	開催月日	主な内容
視察研修	9 月 17 日	妙高市「矢代古民家活用の会」、牧区高尾「山のホムサ」の取り組みを視察
第 8 回地域協議会	10 月 19 日	まちづくりフォーラムの開催について
第 5 回柿崎区地域協議会 だより編集委員会	10 月 19 日	地域協議会だより 44 号（12 月 25 日発行）の 掲載内容について
第 10 回柿崎空き家活かそう プロジェクト会議	10 月 26 日	視察研修を踏まえた空き家の活用について
第 9 回地域協議会	11 月 16 日	自主的審議事項のテーマについて
第 1 回まちづくりフォーラム 実行委員会	11 月 16 日	まちづくりフォーラムの内容について
第 11 回柿崎空き家活かそう プロジェクト会議	11 月 25 日	今後の検討方針について
第 6 回柿崎区地域協議会 だより編集委員会	11 月 30 日	地域協議会だより 44 号の編集

【編集後記】

さまざまな場面で活動自粛が続いていた
 昨今、ワクチンの効果で感染者が減り、経済
 も動き出したことで、やっとこれからと思っ
 ていた矢先、「オミクロン株」という新たな
 変異株が発見されました。この報道で、また
 肩を落とした人も少なくないと思います。

地域協議会では、コロナ禍においても地域
 問題解決に向けて活動し続けてきました。希
 望を捨てずに前を向き、助け合いながら自分
 ができることを取り組み続けることで明る
 い未来を見出すことができると思います。
 今年も残り僅かです。来年はより良い年に
 なると思ひましよう。

（小山 慶 記）

編集委員長 片桐 充

編集委員

岩野秀樹 薄波清美
 貝谷雅子 片桐宏樹
 小出祥世 小山 慶

地域協議会を傍聴しませんか？

開催日程は、防災行政無線でお知らせしま
 す。詳細は柿崎区総務・地域振興グループへ
 お問い合わせください。

TEL 0251-536-2211